

第1層協議体

地域に関心を持つ人を少しずつ増やすために
地域に関心を持つ人が生まれる土壌をどう耕すかを考える場

1

第2層コーディネーターの悩み（課題）

- どうすれば、活動の主体となる人材を発掘・育成できるのか？
- どうすれば、地域のキーマンとなる人材を発掘できるのか？

※ **第2層協議体**に地域のことを一緒に考えてくれる人に参加してほしい。
でもどうやったらそのような方に出会えるのか？

2

いままでの取り組み 地域に関心をもってもらうために

【情報発信】

- ・ 応援ブック
- ・ 応援マップ
- ・ 地域デビューガイド
- ・ YouTube動画配信
- ・ LINE
- ・ 包括LINE
- ・ X
- ・ 市HP
- ・ 包括ニュース

【共通するもの】

- ・ 地域デビュー講演会
- ・ お元気サミット
- ・ シンポジウム

【動機付け】

- ・ シンポジウム
- ・ お元気サミット
- ・ 地域デビュー講演会
- ・ シニア世代の地域参加講座
(市・生涯学習課)
- ・ 介護予防ボランティア養成講座
- ・ スマホサポーター養成講座
- ・ サブスタッフ養成講座
- ・ 介護者サポーター養成講座
- ・ 認知症サポーター養成講座
- ・ 地域福祉ファシリテーター養成講座 (社協)
- ・ 居場所づくり講座 (社協)

3

地域に関心を持つ手順

1. 関心がある（見る・知る）
2. 安心できる（雰囲気がわかる）
3. 少し関わる（参加する）
4. 何度かかわる
5. 役割をもつ

いきなり、役割にもっていかない



4

考え方の転換

よくある誤解✕

- 来なかった＝関心がない
- 参加しない＝無関心層

実際には✓

- 関心はあるが、踏み出せない
- 今はタイミングが合わない
- どんな人たちなのかわからない



5

「幅広い層人へのアプローチ」 関心の芽を育てる

継続的な情報発信をあげていく
地道な努力を続けていく

直接声をかけなくても、

- 写真を見る
- 雰囲気を知る
- 「あ、知ってる人が出てる」と思う



6

2層コーディネーターの活動報告は 未来の参加者へむけて

- 成功報告にしすぎない
- 楽しさ+安心感を伝える
- 「参加しやすかった」
- 「これなら関われそう」



※地域の担い手やキーマンになってもらうための情報発信

7

情報発信手段・頻度・有効な方法

有効な報告の考え方

- ① どんな雰囲気だったか
- ② どんな話題が出たか
- ③ 参加者が何を感じたか

内容の正確さより、
「次は行ってみようかな」が湧くか



8

有効な情報発信手段①

LINE/包括LINE

- **理由**
定年退職前後でも閲覧率が高い
「見に行く」必要がない
写真との相性が高い
- **形式**
写真1～2枚
テキスト3～5行まで
専門用語なし
- **例**
先日、〇〇をテーマにした集まりがありました。
「こんな話が聞けてよかった」という声も。
次回もまたお知らせします。

- ☒ 詳細説明しない
- ☒ 感想を1つ入れる

9

有効な情報発信手段②

HP

- **役割**
「気になった人」が次に見に行く場所
- **内容**
開催概要
当日の写真
印象的な一言



10

有効な情報発信手段③

紙媒体

- **役割**
手元に残る
- **内容**
開催概要
当日の写真
印象的な一言



11